



今庄宿プロジェクト

今庄宿地区伝統的建造物群保存対策調査委員会を設置しました。

この調査委員会は、今庄宿の伝統的建造物群とこれらと一体をなして、その価値を形成している環境の保存対策を調査することを目的としています。

第1回目の会議が5月3日(水・祝)昭和会館で開催され、住民の皆さんに伝統的建造物群保存対策調査に対するご理解を促すために効果的な情報の提供の方法や保存対策調査の内容等について意見交換を行いました。

調査は平成29年度から2年間をかけ実施されます。

その期間内に適時、調査委員会は開催され住民の立場からのご意見や調査の進捗状況や課題などについて議論したうえで保存計画を策定し、町長に報告することになっています。

調査の実施にあたりましては、住民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

今庄宿地区伝統的建造物群保存対策調査委員会に委嘱された委員の方々は次のとおりです。

今庄地区区長会 会長	櫻谷 俊之さん
今庄地区まちづくり推進委員会 委員長	堀口 恒平さん
今庄宿プロジェクト協議会 会長	田中 浩和さん
京都府立大学大学院 教授	大場 修さん
福井工業大学 教授	多米 淑人さん
(独)国立文化財機構奈良文化財研究所 部長	島田 敏男さん



委員会にはオブザーバーとして文化庁文化財調査官 下間 久美子さん、県教育庁文化財調査員 今出 瑞穂さんにご参画いただいています。

“今庄宿”豆知識 その12

今庄は古来から交通の要衝として栄えてきた町で、天保年間(1830～1844年)には戸数290戸を数えていました。今も残る伝統的な町並みは、その多くが明治以降のものですが、その中にある京藤家住宅は、「火事見舞い帳」によると天保年間に建てられたものと推定されています。塗籠ぬりごめの外壁と赤みの強い越前瓦の屋根の上に上げた卯建うだつによって、今庄宿の中でひととき異彩を放っています。



平成22年4月9日に県指定有形文化財(建造物)として指定

京藤甚五郎家の主屋の両端には屋根卯建が上がっていますが、江戸時代には裕福な家であれば卯建を上げることができなかったので「うだつが上がらぬ」という言葉が生まれたとも言われています。また、屋根卯建や虫籠格子窓も総塗籠そうぬりごめしっくいぬ漆喰塗りとし、これを側面から背面まで全面塗籠という非常にしっかりした防火構造を備えています。虫籠格子窓といった美しさ、全面塗籠といった防火構造、それぞれを兼ね備えた県内でも極めて貴重な大型町屋建築となっています。

問合せ 観光まちづくり課 ☎ 47-8013

きとつけ今庄 今庄宿プロジェクト

検索